

SVC048-P05

会場:コンベンションホール

時間:5月22日 14:00-16:30

浅間山鬼押出火山観測井コア試料の岩相と層序 Stratigraphy and Lithologic Features of the Borehole Core from the Onioshidashi Observation Well, Asama Volcano

長井 雅史^{1*}, 中田 節也², 高橋 正樹³, 安井 真也³, 鶴川 元雄¹, 小園 誠史¹, 金丸 龍夫³, 金子 隆之², 武尾 実²
Masashi NAGAI^{1*}, Setsuya Nakada², Masaki Takahashi³, Maya Yasui³, Motoo Ukawa¹, Tomofumi Kozono¹, Tatsuo Kanamaru³, Takayuki Kaneko², Minoru Takeo²

¹ 防災科学技術研究所, ² 東京大学地震研究所, ³ 日本大学文理学部地球システム科学科

¹NIED, ²ERI, ³Geosystem Sciences, Nihon Univ.

防災科学技術研究所が浅間山北麓で掘削した浅間山鬼押出火山観測施設の観測井コア(深度201m)は岩相から大まかに3つのグループに区分される。安山岩質の火砕流堆積物主体の上部(深度0m~72.4m),安山岩のほかにデイサイト質の溶岩片や軽石礫を含む火山泥流堆積物主体の中部(深度72.4m~98.3m),苦鉄質安山岩質の火山泥流ないし火砕流堆積物主体の下部(深度98.3m~201m)である。それぞれ浅間火山の前掛期,仏岩期,黒斑期に相当する堆積物である可能性が高い。黒斑期末期に発生した応桑岩屑なだれ,仏岩期のプリニー式噴火に伴う軽石流堆積物群は欠如している。上部に挟まる土壌層(深度51.3m)からは鬼界-アカホヤ火山灰(約7300年前)が検出された。この前後の層準にある数枚の火砕流堆積物は,これまで降下テフラ以外の噴出物の存在が明確にされていなかった前掛火山初期の噴火様式を解明する上で重要である。

キーワード: コア試料, 浅間火山, 噴火履歴, 火山泥流, 火砕流, アカホヤ火山灰

Keywords: Borehole core, Asama volcano, Eruptive History, Lahar, Pyroclastic flow, K-Ah tephra